



おじいちゃん、おばあちゃんの役割とは

「今回もリスナーの方からお悩みが届いておりますので、先生にお伺いしたいな
と思います。では亀谷さん、メッセージの紹介よろしく願います。」

「坂出市にお住まいのラジオネーム桜奈さんからいただきました。」

うちの子供たちが祖父母の言うことしか聞かなくて、困っています。中学生の娘
と小学生の息子と娘がいますが、おじいちゃんとおばあちゃんの言うことばかり
聞いて、私や旦那の言うことをなかなか聞かないんです。二世帯で一軒家に住ん
でいて、夫側の祖父母と住んでいますが、子供たちに甘いおじいちゃん、お
ばあちゃんの言う事はよく聞くのに、親の私たちの言う事はなかなか…。早く寝
るようにと同じように注意しても、やはり祖父母側の言う事は聞いているよう
な感じですか。「反抗期と言うのもあるかもしれませんが、こっそり欲しいものを買っ
てくれている(らしい)祖父母だからなのかなと思ってしまいます。おじいちゃ
ん、おばあちゃんがこっそり何かと買ってくれているかもしれないと。それが一
つ大きなポイントなのかもしれないと思ってらっしゃると。主人ともども困って
いるんですが、どうするのが良いでしょうか。」

「こういったご質問、まあお悩みですね。旦那さん側のおじいちゃん、おばあちゃ
んと一軒家で一緒に暮らしていて、お子さんがそのおじいちゃん、おばあちゃん
の言うことばかり聞くと言うことですか。」

「まずは先生、この相談をお聞きになってどのように感じられますか？」

私、「この桜奈さんを心から褒めたいです。同居生活をしているということ自体が
すごいんです。しかも、旦那さん側と。これで七大家族ってことは、十年以上同居
しているのかなと思うんですが、この状況で頑張ってるって言うことに、「あなたえらい」と私は言いたいです。」

子育てしていたら、いろんなイライラがあると思いますが、同居の場合は違う面
でもあります。例えば、良いとこ取りばかりする義父母に対して、その義父母と
の間を取り持てない夫に対して。でも多分一番傷つくのは、それに丸め込まれて
いる子ども達ですよね。そういう風に感じて、イライラしちゃうんですね。核家
族でおじいちゃん、おばあちゃんが遠くにいるのと違って、イライラポイントが
すくく多いと思うんです。その中で、すくく頑張ってるって、すくく頑張るって思っています。」

「核家族」という言葉が出ましたけど、おそらく昭和四十年代以降くらいから核家族が日本の中心的な形になってきていますね。それ以前はご主人側の旦那さん家族と一緒に住んで子育てをするという大変さがあった、それがおそらく当たり前の時代でしたよね。それをこの令和の時代に今まさに悩んで頑張っているっていう。

核家族は子どもと夫婦だけで、だからストレス溜まるというのはあるんですよ。他人に頼れず孤立してしまう「孤育て」で、今はそれが大きな問題ですよ。そういう意味で同居だと悩みを相談できたり、話し相手がいて寂しくないだろうし、いろいろ手伝っていただいたりして良い面はあると思います。

―助かっている面はありますよね。

だから大きな声で文句を言えないんだけど、いろいろモヤモヤするんでしょうね。

―疎外感と言うか、なかなか自分の家なのに馴染めないということもあって、イライラしたり。旦那さんからすると、生活は基本変わってなくて、そこに奥さんと子どもが加わって、自分にとってはプラスですよ。

―奥さんの方はゼロもしくはマイナスからのスタートで、そこから自分で作り上げてきて、もしかしたら共働きなのかな。おじいちゃん、おばあちゃんが子どものお迎え行ってくれたりしてくれているのかもしれないですよ。そうすると言いたいこともなかなか言えない。

そうですね。お世話になっていたら、言いたいんですよ。

―京子さんは、京子さんの親御さんも、ご主人さんの親御さんも香川に住んでいるけど一緒に暮らしていないんですよ。

―そうですね。でも頼みやすいのはやっぱり私の両親の方ですかね。子どもの迎えや買い物頼んだり。なかなか義理のお母さんを電話一本で呼びつけることはできません。

―それができるんだったら、ストレスは感じないでしょうね。先生、この場合ご主人さん側じゃなくて自分の両親と同居だったら、また全然事情が違いますよね。

気の使い方とか全然違いますね。

―でも、おじいちゃん、おばあちゃんが子育てに大きく関わってくるって、この時代結構多

いいと思うんです。おじいちゃん、おばあちゃん自身も、どこまで自分たちが踏み込んでいいのか悩んでいる方も多いと思うんです。何か注意するべき点とかございますか？

そうですね、「子育てをしている主体は親である」ということを忘れてはいけないことですね。親が子育ての方針やルールを決める。それをサポートするに留めるのがいいですね。お父さん、お母さんに確認してから買う、食べさせる、何かをさせる。親に確認せずに勝手にするのはよくないですよ。または頼まれたことだけをやるのがいいと思います。

—それはどうしてなんですか？

そうしないと子どもが親の言うことを聞かなくなるからです。人間は、自分に都合が良い方楽な方、聞いてくれる方に流れてしまいますよね。私も母親と一時暮らしていました。夫が単身赴任で数年いなかったものですから。三人の子どもは私にこっさり、これを食べたいとかいうわけですよ。でも、私の母は、私がいいって言ったかどうかを必ず確認するんです。お母さんが良いいって言わなかったらしないし、ダメって言ったたらダメだって一貫してくれています。そうすると子どももお母さんの言うことが一番、主体は親なんだって言うことを学ばんです。とても大事なことだし、とても助かりました。

—これはいいヒントになりますね。そういうスタイルをとっていたら、子どもたちもおじいちゃん、おばあちゃんは自分たちのことを考えてくれていることがわかるし、お父さん、お母さんの子育て方針を尊重すること立てていて、お父さん、お母さんもおじいちゃんおばあちゃんたちが助けてくれていると年長者を立てている。そういう立ち位置が自然に身に付いてくるんじゃないかなって気がします。

そうですね。おじいちゃん、おばあちゃんも特別にしてくれないこともあっていいと思うんですけど、内緒にしないで正直に話して、親からの了解を得る感じがいいですね。「お父さん、お母さんがいいって言うてくれているから、これは特別ね」という感じがします。そうしない子どもがおじいちゃん、おばあちゃんに付いて親と対立するのを避けたいですね。

—それはこのラジオを聴いてくださったってある桜茶けんは当てはまると思うんですが、それをおじいちゃん、おばあちゃんに伝えて伝えればいいのかが大きな問題になってきますね。これはご主人さんの役割ですね。

そうですね思います。

—今、すいこく艦たぐりしてしゃべると思うので、今晚でもご主人が仕事から帰ってきたら、ラジオ

オでこんなアドバイスがあったって言うてもらった方がいいですよね。こっそり。で、ご主人様があなたかも自分の考えというか教育方針として、これからはこうしてくれろと嬉しいなって言う感じで、ご両親に伝えるとスムーズにいくのかなと思ったりしますけどね。

そうですね。ただお子さんがもう中学生と小学生二人なので、習慣として染み付いてなかなか変えられないこともあると思います。子どもをちゃんとさせたい、言うことを聞かせたい、とられた子どもを取り返したいというような気持ちでいると状況が変わらず辛いですよね。そこは考え方を変えて、自分が楽しく過ごせたらいい、子どもが楽しそうだったらいいと目標を変えると楽になりますね。子どもを自分側につけようとするとかガミガミ言うて支配的になり、親子関係が悪くなってしまうです。だから、楽しく過ごすことや、話を楽しく聞くことを目標にして実行すると、子どもは自分のことをちゃんと見てくれている、愛されていると実感し、一緒にいて居心地がよくなります。そうすると会話も増えるし、親の言うことも聞くようになって言う気持ちになります。まずは楽しく過ごすことを第一に考えると楽じゃないかと思います。

—すぐ今大事なポイントをおっしゃってくだなりました。親はどうしても自分側についてほしいって思ってしまうんですね。どっちが好きなの？」「とか聞いてしまったらね。

—先生がおっしゃった盗られたものを取り返すみたいな感情にくらわれると、絶対マイナスイな気持ちになりますよね。お子さんが見てたら「お父さん、お母さんとおじいちゃん、おばあちゃん、仲悪いんだなあ」とかそういうふうに取りつかねないですよ。

そうですね。子どもは多分わかっちゃいますよね。長いこと一緒に住んでいたら、お母さんのネガティブな気持ちやイライラ、お父さん、お母さんとの関係、おじいちゃん、おばあちゃんとの関係、もういろいろ見えているんですよ。

—あと、お姉ちゃんが中学生ということなので、もう大人の話が十分でキマっていますよね。お姉ちゃんと弟妹で、気持ちをちゃんと話しあってもらうって言うのはどうですか、先生。そうですね。それもいいと思います。中学生と小学生ならもしっかり話をすることができると思うので。言うことを聞かないっていうことも、どっちもおばあちゃんのこと聞くのにお母さんの言うことを聞けないのかという話をすると、お母さんの言い方が嫌だとか、タイミングが悪いことが原因かもしれないですね。テレビやゲームの途中で風呂に入わっているかもしれないし。具体的なことが話し合えるって違いますよね。

—自分が子どもの時って、それすごく嫌だったのに結構やっていたりしますよね(笑)。

小学生だと上手く言えないことも、中学生から見ても「それがお母さんの嫌がられるところなんだよ」って指摘されるとすごい痛いんだけど、そういう子どもからの意見っていうのを聞くと関係もガラッと変わってくるかも。

「今どうにかしたいと思っている時なので、このタイミングでご主人さんとやっつけていくのが良いかもしれないですね。子どもへの向き合い方やタイミング間違っていないかとか。割とそういうのでお母さん嫌いってなったりしますもんね。「なんで今話すかなー」みたいな。

「スマホで友達と連絡取り合っている時なんかに言われたりすると、カチンとくるかも。

「それ誰？なんて子？お母さん知ってる？」とかね(笑)。小さい頃だと教えてくれても、大きくなると教えてくれなくなりませよね。冒頭でおいちゃん、おばあちゃんと、特に義理のお母さん、お父さんと住んでいるって言うことはすごいことです。頑張っているねってお話してくれましたけれど、この同居っていうのは最近少なくなってきた感じなんです、一緒に住むっていうことで良い面もいっぱいありますよね。

あります。子どもにとって祖父母と一緒に暮らす体験は昔の事を知ったり、いろいろな学びがありますよね。私は裁縫が得意じゃないので、得意な親が子どもに裁縫を教えてくださいましたのは助かったし、余裕があるから子どもの話を面白おかしく聞いてくれたりします。後は人が老いていく姿を見せられるのがすごくいいなあと思います。昔と違って体力もなくなるし、物忘れも多くなる。みんな年取ったらこうなるんだとか、そしたらどんなふうに接して世話をするかというのを見てもううのは、すごくいい経験です。人が死んでいく姿ってなかなか見ないじゃないですか。大事なことだと私は思いますね。

「たしかに、人が亡くなるっていうのは核家族では見る機会が少なくて、見るにしてもおじいちゃん、おばあちゃんが亡くなるからのお葬式ですよ。老いていく過程ですよ、ちっちゃい頃は元気でいろんなもん買ってくれたのに、今はもう自分のことも思い出してくれない、そして天寿を全うされてっていう過程ですよ。そこは大いに人の生というものを感ずるきっかけになりますね。

そうですね。小さい頃は抱っこや肩車してくれたこともあったけど、そのうち重い物も持たなくなつて代わりに持ってあげたり、手を貸してあげられるようになったり。そういう思いやりも示すこともできるのはいい経験ですよ。結局はお父さん、お母さんとおじいちゃん、おばあちゃんって全然違う立場の人ですよ。子どもにとっては、やっぱり絆を作るのは父親と母親であつて、おじいちゃん、おばあちゃんも大切なんだけど、やっぱりサポーター、あ

る意味おまけみたいなね。そのおじいちゃん、おばあちゃん自身も自分はおまけなのだ、主体は両親だということをお母さんを立てていくっていつものすごく大事です。

―子育てのメインはやはり親であるということですね。ただおじいちゃん、おばあちゃんもお孫さんをすごく大事にしてくれていますので、ある意味とても幸せなことですよ。

―ですのでちょっと何かを変えたいとお便りをくれていますから、ぜひ参考にさせていただいて、関係性を築き直すのも遅くはないですよ。

遅くはないです。最近、小谷野恵さんが書いた「子育ての新常識 幸せ祖父母のハッピー子育て術」という孫育ての本を読みました。祖父母としての心得、孫との接し方などいろいろ書いてあるんですけど、とてもよかったです。おじいちゃん、おばあちゃんにぜひ読んでもらいたいですね。

―そういうためになる本がいろいろあるんですね。

―桜茶さんはその本をそっとリビングに置いておくとか(笑)。

―誰がおいたんやっとなりますね(笑)。

ラジオで鈴木先生が紹介していたから買ってみたんだけどって言うといいかもしれないですね！

―そうですね。言ってもらったほうがいいかもしれないですね。

―そっとはダメですね(笑)。そこから無言の圧力感じますからね(笑)。ぜひ桜茶さん、参考にさせていただけたらと思います。頑張ってください！

夫に義両親に話してもらおうという話題が出ましたが、話し方が大事ですよ。昔、耳が痛いことを伝える時は「サンドイッチで話せ」と聞いたことがあります。

まず、感謝や長所などポジティブなことを言います。この場合、「いつも手伝ってくれてありがとう」「おかげで安心して仕事ができるよ。お母さんのおかげだよ」などですね。その次に、「○○してもうえるのを助かる」などお願い事を言います。目上の人には相談するふりをして、してもらいたいことに誘導するといった技もあります。

そして最後には、必ず感謝やねぎらいの言葉などで締めくくります。そうすると、気持ちよくなってもらえます。「この方法ならお嫁さんでもできると思います！」